

龍谷 政策学論集

Ryukoku Journal of Policy Science

第7巻 第1・2合併号 2018年3月

石田徹教授・中村剛治郎教授・矢作弘教授 退職記念号

- 3 欧州を揺るがす「福祉ポピュリズム」の波
—「左翼ポピュリズム」というもう一つの動き— 石田 徹
- 19 現代地域経済学の構築を求めて（1） 中村剛治郎
- 35 ジャーナリズムとアカデミズムの狭間で
—羞恥と幾らかの矜持— 矢作 弘

論 説

- 55 中国の都市生活廃棄物政策の進展と課題
—日本、台湾との比較研究— 北川 秀樹
- 71 コミュニティ放送とソーシャルワークとの相似点
—社会的包摂の番組から見る機能と役割— 松浦さと子
- 87 生存権・福祉政策と民主主義論（1） 奥野 恒久
- 99 主権者教育と政治争点
—若年有権者の声から「騒動」を忌避する社会と教育を考える— 土山希美枝
- 111 地域で「協働」を推進する要素とは
—ウイーンにおけるローカル・アジェンダ21の取り組みから— 的場 信敬・平岡 俊一
- 119 燕・三条における金属加工技術集積地域の動態的実証研究
—産地構造分析から地域産業システム研究へ— 上野 敏寛

研究ノート

- 137 龍谷大学政策学部による域学連携の取り組み（上）
—兵庫県洲本市を事例に— 白石 克孝・櫻井あかね・中村保ノ佳
- 151 思想・良心の自由をめぐる今日の問題 奥野 恒久
- 163 大学と地域の連携プログラムにおける一考察
—Ryu-SEI GAP を事例に— 深尾 昌峰・三木 俊和
- 177 LGBT から SOGI への意識転換の重要性
—セクシュアルマイノリティに関する龍谷大学のアンケート結果から— 吉本 圭佑

LORC 活動報告

- 193 旧東ドイツの縮小都市の現状及び対応 久保 友美・今里佳奈子

龍谷大学政策学会

石田 徹 教授

中村剛治郎 教授 退職記念号

矢作 弘 教授



石田 徹 教授



中村 剛治郎 教授 (2018年1月18日 最終講義)



矢作 弘 教授

献 辞

2018年3月31日付けで、石田徹先生、矢作弘先生、中村剛治郎先生の三人の先生が定年退職されます。政策学論集第7巻第1・2合併号は、定年退職される三人の先生方の退職記念号として発行されます。政策学部は、2011年に開設され、2018年には2015年スタートの新カリキュラムも一巡し、8年目を迎えます。この8年間で政策学部教育の基本的な形が固まってきたといえますが、三人の先生方は、この政策学部創設の黎明期に、政策学部・政策学研究科を研究、教育、社会貢献の充実・発展に大いに貢献されました。ここに政策学会のメンバーを代表して、ご退職をお祝いするとともに、心よりお礼申し上げる次第です。

さて、ご退職される先生方を龍谷大学に着任された順に紹介させていただきます。三先生の略歴や業績についての詳細は本号巻末の掲載されておりますので、そちらをご覧ください。

石田徹先生は、大阪市立大学法学研究科博士課程修了された後、1979年に龍谷大学法学部助教授に着任されました。政治学をご専門とされ、社会政策、雇用政策を中心に福祉国家論の研究、ポピュリズムと現代民主主義論の研究と幅広いご研究をなされ、LORCの研究プロジェクトにおいて中心的な役割を果たしてこられました。また、石田先生は、40年近くに及ぶ龍谷大学在職中に、教学部長、研究部長、大学院法学研究科長、法学部長などの要職も歴任され、2011年の政策学部創設時には、その創設メンバーとして中心的な役割を果たしてこられました。政策学部と同時に創設された大学院政策学研究科長を務められ、2013年4月から2017年3月まで政策学部長も務められました。政策学部は、法学部政治学科において進められてきた研究・教育上の革新的な実践を基盤になされたのですが、その中心をになわれた石田先生無くしては、政策学部の創設は実現しなかったと言っても過言ではありません。

矢作弘先生は、長年にわたり日本経済新聞社に記者として勤められていました。日経時代には、ロサンゼルス支局長、編集委員も歴任されました。ロサンゼルス支局長をはじめとする豊富な海外取材経験から欧米の都市政策・地域政策に通じられており、日本経済新聞社時代より多くの著書をお書きになっておられました。そういった意味では、「ジャーナリズムとアカデミックの接点で考え、教授する」異色の実務家教員でもありました。矢作先生のご専門は、都市論、都市政策論ですが、最近では「縮小都市」論を中心に研究されています。2003年より大阪市立大学大学院創造都市研究

科・教授に着任されました。その後、2011年の龍谷大学政策学部の創設に政策学部・教授として参画され、政策学研究の推進や政策学部教育の実践において重要な役割を果たされました。2016年からは特任教授として大学院教育を中心にご担当していただきました。矢作先生は、LORCの研究プロジェクトにおいて中心的な役割を果たされるとともに、若手研究者への研究上のアドバイスも的確で、若手研究者を育てるといっても大いなる貢献をされました。

中村剛治郎先生は、大阪市立大学大学院商学研究科博士課程修了後、1981年から1984年まで金沢大学経済学部で講師・助教授、1984年から2012年まで横浜国立大学経済学部で助教授・教授を務められました。2012年3月に横浜国立大学を退職され、2012年4月より政策学部教授に着任され、2016年からは特任教授として大学院教育を中心にご担当していただきました。中村先生は、地域経済論、地域経済政策をご専門とされ、多数の学術研究書、学術論文をお書きになり、地域政治経済学アプローチによる独創的な研究領域を切り開いてこられました。政策学部・大学院政策学研究科においては、博士課程院生の教育から学部専攻科目に至るまで幅広い教育に従事していただき、とりわけ博士課程教育では学位授与に関わる研究指導で大いに貢献していただきました。

この春、政策学部・大学院政策学研究科の教育で、これまで重要な役割を担ってこられた創設期第1世代の三人の先生方が退職されることになり、政策学部・大学院政策学研究科・政策学会は、否応なく新たなステージに入らなければなりません。学部創設以来、持続可能な社会の実現、協働型社会の実現、地域公共人材の育成と言った目標を掲げ、教育・研究・社会貢献に「チーム政策」として一丸となって全力で取り組んできまいりました。その結果は、国内外でも高く評価されてきましたし、受験生にも政策学部の取り組みが理解され、安定的に志願者も確保できているところであります。残された私たちは、政策学部、大学院政策学研究科、政策学会の新たな地平を切り開いていかなければなりません。政策学部・大学院政策学研究科・政策学会は、少子高齢化時代・18歳人口の減少といった大学を巡る環境も厳しさを増す激動の時代にあっても、持続可能な社会、協働社会の実現と行った理念を見失うことなく、社会連携型の研究・教育プロジェクトの展開など果敢に挑戦し続けます。その決意をここに述べるとともに、退職される先生方の益々のご健勝と今後のご活躍を念じ、献辞いたします。

政策学会長 只友景士

~~~~~  
 政策学会消息  
 ~~~~~

〈学会・研究会報告〉

石原 凌河

- 1) 「南海トラフ巨大地震における孤立可能性集落の負傷者数推計と搬送方策の検討」2016年5月28日、第53回土木計画学研究発表会、北海道大学札幌キャンパス、石原凌河・坪井塑太郎・照本清峰の共同報告
- 2) 「熊本地震被害実態と復興の姿：災害対応からみた熊本地震における復興の論点」2016年7月8日、都市環境デザイン会議関西ブロック緊急セミナー、大阪市立総合生涯学習センター
- 3) 「学校防災教育の水平展開を目指した学校教員と防災研究者との協働的実践」2016年10月23日、日本災害情報学会第18回学会大会、日本大学文理学部キャンパス、石原凌河・若本和仁の共同報告
- 4) 「地域で受け継がれている災害伝承の特性とその意義」2017年3月9日、ナラティブ（語り）研究の社会貢献を考える』ラウンドテーブル、龍谷大学深草キャンパス

岡本 健資

「『舎衛城の神変』と『三道宝階降下』」（2017年1月28日）「2016年度第4回中央アジア科研全体研究会——釈迦信仰と法華経——」（於龍谷大学大宮学舎西齋大会議室）。

奥野 恒久

「憲法と平和」についての問題提起・2016年9月2日・日本科学者会議総合学術研究集会・龍谷大学深草学舎和顔館
 「参議院選挙後の改憲動向」・2016年9月15日・民主主義科学者協会法律部会憲法分科会合宿研究会・かんぽの宿焼津

北川 秀樹

「環境・政治分科会（環境政策における市民参加とガバナンス）」コーディネーター、日本現代中国学会全国学術大会2016年10月30日、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス

「龍谷大学での地球温暖化防止の取組」2016年12月10日、第7回宗教と環境シンポジウム、龍谷大学深草キャンパス

「中国の都市生活廃棄物問題と政策」2017年3月14日、都市生活廃棄物に関するワークショップ、

「日本の環境法政策」2017年3月21日、西北大学法学院

白石 克孝

企画と座長「分科会：地域と大学の連携による地域政策へのアプローチ」2016年5月10日、日本地域政策学会第15回全国研究大会、関西大学高槻ミュージックキャンパス

櫻井あかね、白石克孝 共同報告「再生可能エネルギー基本条例による地域エネルギー政策の現状と可能性」、2016年8月10日、日本エネルギー学会第25回大会、工学院大学

中森 孝文

1. Kiyoshi Takahashi, Oksana Arshynnikova, Takafumi Nakamori, Individual unlearning in organizational settings: Definitions and empirical evidence, June 26 2016. The 28th Annual Meeting of the Association of Japanese Business Studies (AJBS), New Orleans.

2. 高橋潔、中森孝文、Arshynnikova Oksana、組織の断捨離——アンラーニング現象の概念的・経験的検討、2016年11月6日、第20回経営行動科学学会年次大会、明治大学。

的場 信敬

1 的場信敬「地域協働型再生可能エネルギーを活かすガバナリングと自治体のあり方」自主企画セッション「地域協働型再生可能エネルギー導入推進のためのガバナンスの構築」、『日本環境学会第42回研究発表会』（於：東京都市大学横浜キャンパス、2016年6月19日）

村田 和代

「まちづくりの話し合いをめぐって——実践に

つながる言語研究と取組みの紹介」2016年8月10日、第77回言語・音声理解と対話処理研究会（人工知能学会主催、共催 LORC）招待講演、龍谷大学深草キャンパス。

Kyoto Alliance for Local Public Human Resource Development, in the session entitled 'Successful Models of University-Industry linkages', 2016/9/20, the 6th *International Skills Forum : Innovative Practices in Skills Development*, Headquarter of Asian Development Bank (ADB), Manila, Philippine.

「インタビュー・ナラティブの社会言語的考察を課題解決につなげる——京都府北部地域をターゲットにして」2017年3月9日、『ナラティブ（語り）研究の社会貢献を考える』ラウンドテーブル（龍谷大学国際社会文化研究所主催）、龍谷大学深草キャンパス。

「言語研究の実社会への還元と応用——まちづくりの話し合いの談話分析を社会实践につなげる」、2017年3月20日、認知言語科学研究会『談話研究と認知・機能言語学の接点』、招待講演、東京大学駒場キャンパス。

《著書・共著・論文・翻訳》

石原凌河

- (論文) 1) 「災害の記憶をどうつないでいくか：災害遺構の保存をめぐる」都市問題 Vol. 108、No. 3、pp. 37-47、2017年3月1日
2) 「水平展開を目指した学校防災教育における研究者と学校教員との連携」龍谷政策学論集 Vol. 6、No. 2、pp. 77-89、2017年3月14日

岡本健資

- (著書) 【共著】パリー学仏教文化学会・上座仏教事典編集委員会編『上座仏教事典』めこん、2016年10月(内、岩田朋子・岡本健資・龍口明生担当「出家者の生活規範」pp. 104-107).
【共著】仏教史学会編『仏教史研究ハンドブック』法蔵館、2017年2月(内、岡本担当「仏伝文学・仏教説話」pp. 14-16).
(論文) 【共著】能仁正顕・宮治昭・岡本健資・岩田朋子(共著)「共同研究 多田等観将来資料「釈尊絵伝」の研究」『仏教文化研究所紀要』第55集(2017年3月)、pp. 1-35(内、岡本担当「多田等観将来「釈尊絵伝」における舎衛城神変の表現について」pp. 20-35).

奥野恒久

- (論文) 「民主的・非軍事平和主義の展望」中村浩爾・桐山孝信・山本健慈編『社会変革と社会科学——時代と対峙する思想と実践』(昭和堂、2017年)

北川秀樹

- (著書) Hideki KITAGAWA (Editor) "Environmental Policy and Governance in China", Springer, 2017.3
(論文) 北川秀樹「中国環境法政策執行及改善環境治理的課題——以地方政府为中心」『当代日本中国研究(経済・環境係編)』第6号、社会科学文献出版社、2017年。

白石克孝

- 「地域エネルギー政策最前線」日本環境学会編『人間と環境』第42巻第2号 pp. 35-37、2016

共同執筆 白石克孝・櫻井あかね「地域エネルギー政策に関する考察——再生可能エネルギー基本条例を題材に」日本エネルギー学会編『日本エネルギー学会誌』第95巻11月号 pp. 974-979、2016

「多層的なプログラムによる都市イノベーション——EUの結束政策のインパクトをふまえて」脱工業都市化研究会編著『トリノの奇跡——「縮小都市」の産業構造転換と再生』所収、藤原書店、2017年2月、ISBN 978-4865781144
「これからの地域公共人材——定義と課題について考える」とよなか都市創造研究所『Toyonaka ビジョン 22』Vol. 20、pp. 2-9、2017年3月

中森孝文

- 「博士論文：経営判断の合理性の所在とその影響に関する研究」(神戸大学：博士(経営学))
2016年3月
(論文) 不合理な経営判断の影響に関する考察・商工金融第66巻第11号、pp. 4-23、2016年11月20日、

松浦さと子

- (著書) 『日本のコミュニティ放送 理想と現実の間(はざま)で』晃洋書房 2017(松浦さと子編、共著)
日本社会学会 理論応用事典刊行委員会編『社会学理論応用事典』丸善出版 2017 担当項「社会運動とメディア」
(論文) 松浦さと子(2016)「市民政策を支えるコミュニティ放送 フォーラム拠点形成のために」『地方自治職員研修』690号、pp. 21-23(公職研)

的場信敬

- (著書) 1 的場信敬「第7章 英国の「パートナーシップ文化」のゆくえ——「ビッグ・ソサエティ」概念の考察から」、白石克孝・的場信敬・阿部大輔(編)『連携アプローチによるローカルガバナンス』(日本評論社、2017年)
2 的場信敬・白石克孝・阿部大輔「終章 地域のレジリエンスを高める」、白石克孝・的場信

敬・阿部大輔（編）『連携アプローチによるローカルガバナンス』（日本評論社、2017年）

3 的場信敬「13. 脱炭素型都市に向けた都市交通政策」、特定非営利活動法人気候ネットワーク（編）『脱炭素地域のつくりかた：パリ協定担い手のためのリファレンス』（紀書房、2017年）

（論文）1. 的場信敬（2017）「Big Society 概念が英国のパートナーシップ文化にもたらしたものの：社会的投資市場の発展から考える」『龍谷政策学論集』

2. 的場信敬（2016）「自治体主導型の再生可能エネルギー導入：京丹後市を事例に」『社会科学研究年報』第45号、pp. 247-254（龍谷大学社会科学研究所）

村田和代

（著書）『市民参加の話し合いを考える』（シリーズ『話し合い学をつくる』第1巻）2017年3月、ひつじ書房（編者）

「第4章 配慮表現」東森 勲（編）『対話表現はなぜ必要なのか——最新の理論で考える』（シリーズ〈言語表現とコミュニケーション〉第2巻）朝倉書店、pp. 94-115、2017年3月。

（論文）「まちづくりの話し合い学——言語学・社会学からのアプローチ——」（共著）『社会言語科学』第18巻第2号、pp. 94-99、2016年3月。

「雑談についての社会言語学的実証研究」『国際社会文化研究所紀要』第18号、pp. 35-44、2016年6月、龍谷大学国際社会文化研究所。

「『京都モデル』——大学と地域のステークホルダーの協働モデルをアジアにアピール」（共著）『龍谷政策学論集』第6巻1・2合併号、pp. 105-109、2017年3月。

「グローバル人材育成をめざす企業連携による課題解決型学習プログラムの開発と実施」（共著）『龍谷政策学論集』第6巻1・2合併号、pp. 63-76、2017年3月。

「地域公共人材に求められるコミュニケーション能力をめぐって」『TOYONAKA ビジョン22.』、vol. 20、pp. 20-28、2017年3月、とよなか都市創造研究所。

（その他）（文部科学省検定高等学校教科書）編集委員、Revised BIG DIPPER English Communication. 数研出版。

執筆者紹介（掲載順）

- 石田 徹（本学政策学部教授）
中村 剛治郎（本学政策学部教授）
矢作 弘（本学政策学部教授）
北川 秀樹（本学政策学部教授）
松浦 さと子（本学政策学部教授）
奥野 恒久（本学政策学部教授）
土山 希美枝（本学政策学部教授）
的場 信敬（本学政策学部准教授）
平岡 俊一（北海道教育大学釧路校准教授）
上野 敏寛（本学政策学部博士後期課程院生）
白石 克孝（本学政策学部教授）
櫻井 あかね（本学地域協働総合センター PA）
中村 保ノ佳（本学大学院政策学研究科修士課程修了生）
深尾 昌峰（本学政策学部准教授）
三木 俊和（まちとしごと総合研究所）
吉本 圭佑（本学政策学部講師）
久保 友美（本学地域公共人材・政策開発リサーチセンター博士研究員）
今里 佳奈子（本学政策学部教授）

2017年度龍谷大学政策学会評議員および役員

青山 公三	白石 克孝
阿部 大輔	白須 正
石田 徹	只友 景士 (会長)
石原 凌河	谷垣 岳人
井上 芳恵 (編集委員)	土山希美枝
今里佳奈子	中村剛治郎
碓井 智子 (庶務・会計委員)	中森 孝文
大石 尚子	深尾 昌峰
大島 堅一	松浦さと子 (編集委員)
大田 直史	
岡本 健資	的場 信敬
奥野 恒久 (会計監査委員)	村田 和代
北川 秀樹 (副会長)	村田健三郎
金 紅実	矢作 弘
清水万由子 (庶務・会計委員)	吉本 圭佑

龍谷政策学論集第7巻第1・2合併号

2018年3月12日 発行

発行者	龍谷大学政策学会 京都市伏見区深草塚本町67
	代表 只友 景士
印刷所	株式会社 富山房インターナショナル 京都市南区吉祥院池田南町13

RYUKOKU JOURNAL OF POLICY SCIENCE

Vol.7, No.1・2 March 2018

Festschrift for the Retirements of
Prof. Toru ISHIDA, Prof. Kojiro NAKAMURA, Prof. Hiroshi YAHAGI

- 3 **The Wave of Welfare Populism shaking Europe:
Left-wing alternative of populism**
Toru ISHIDA
- 19 **Toward Building Contemporary Regional Political Economy**
Kojiro NAKAMURA
- 35 **Between Journalism and Academism:
Shyness and self-regard**
Hiroshi YAHAGI

Articles

- 55 **Progress and Issues of City Waste Policy in China:
Comparative Study with Japan and Taiwan**
Hideki KITAGAWA
- 71 **Similarities between community broadcasting and social work:
Functions and roles from the viewpoint of social inclusion programs**
Satoko MATSUURA
- 87 **The Right to Live, Welfare Policy and Democracy**
Tsunehisa OKUNO
- 99 **"Shukensya" Education and Political Issues:
A study of Citizenship Education and Youth Voter's Awareness in Japan**
Kimie TSUCHIYAMA
- 111 **What promotes partnership workings for local sustainability?:
A study of the Local Agenda 21 process in Vienna**
Nobutaka MATOBA, Shunichi HIRAOKA
- 119 **Reorganization of Regional Industrial System in Metal Processing Technology Agglomeration Area:
Comparative Regional Institutional Approach of Tsubame-Sanjo**
Toshihiro UENO

Notes

- 137 **Collaborations with Communities Made by the Faculty of Policy Science at Ryukoku University:
In the Cases of Sumoto City in Hyogo Prefecture (I)**
Katsutaka SHIRAISHI
- 151 **The Current Problems about the Freedom of Thought and Conscience**
Tsunehisa OKUNO
- 163 **A Study on Collaboration Program between University and community:
Case study of Ryu-SEI GAP**
Masataka FUKAO, Toshikazu MIKI
- 177 **The Importance of Changing Mindset from LGBT to SOGI:
From the Results of the Questionnaire Survey about Sexual Minorities at Ryukoku University**
Keisuke YOSHIMOTO

LORC Activity Reports

- 193 **Current situation and correspondence of shrinking cities in former East Germany**
Tomomi KUBO, Kanako IMASATO